

# 平成29年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

平成29年度重点課題

- 1 学校運営体制の充実
- 2 人権教育の推進
- 3 学習指導の充実
- 4 進路指導の充実
- 5 生徒指導の充実
- 6 特別活動の活性化
- 7 安全教育と環境教育の推進
- 8 グローバル化に対応した教育の推進
- 9 特色ある学校作りの推進
- 10 情報教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策													
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見														
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。  ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。  ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td>①職員のアンケートによる職務の満足度 90%以上を目指す。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td>①学年主任会・IRP 分野別スタッフ会議・各種委員会を定期的にもつ。</td> </tr> </table>	評価指標	①職員のアンケートによる職務の満足度 90%以上を目指す。	活動計画	①学年主任会・IRP 分野別スタッフ会議・各種委員会を定期的にもつ。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td>①職務の満足度を直接尋ねる項目が職員アンケートに含まれていないため、達成度は不明だが、本校の基本方針を踏まえた教育がなされていると考える教職員は92.9%に上っている。</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td>①学年主任会、IRP 分野別スタッフ会議は、会議という形では開催せず、普段の取組の中で連携を取り合っ課題に対応した。23 に及ぶ各種委員会についてはそれぞれ必要に応じて開催し課題に対応した。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①職務の満足度を直接尋ねる項目が職員アンケートに含まれていないため、達成度は不明だが、本校の基本方針を踏まえた教育がなされていると考える教職員は92.9%に上っている。	活動計画の実施状況	①学年主任会、IRP 分野別スタッフ会議は、会議という形では開催せず、普段の取組の中で連携を取り合っ課題に対応した。23 に及ぶ各種委員会についてはそれぞれ必要に応じて開催し課題に対応した。	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td>(評定) <b>A</b></td> </tr> <tr> <th>(所見)</th> <td>①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通</td> </tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通	<p>来年度は、職務の満足度を尋ねるアンケートを実施し、一層の運営体制の充実を図ってほしい。</p>	<p>①入学時から卒業までの3年間を見通した教育の実践と学校目標の達成に向けて、各学年、各分掌、各教科等で途切れることなく教職員が連携し、引き続きカリキュラムの改善に努める。</p> <p>②コンプライアンスに関する報道については機会ある毎に取り上げ、年間を通じて注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やeラーニングによる研修の受講を引き続き推進する。</p> <p>③各種研修会や講習会・発表会等に関する情報を周知して参加を促すとともに、参加者による報告書の作成と全体での情報共有を推進し、指導力の向上につなげていく。</p>
		評価指標	①職員のアンケートによる職務の満足度 90%以上を目指す。															
		活動計画	①学年主任会・IRP 分野別スタッフ会議・各種委員会を定期的にもつ。															
		評価指標の達成度	①職務の満足度を直接尋ねる項目が職員アンケートに含まれていないため、達成度は不明だが、本校の基本方針を踏まえた教育がなされていると考える教職員は92.9%に上っている。															
活動計画の実施状況	①学年主任会、IRP 分野別スタッフ会議は、会議という形では開催せず、普段の取組の中で連携を取り合っ課題に対応した。23 に及ぶ各種委員会についてはそれぞれ必要に応じて開催し課題に対応した。																	
総合評価	(評定) <b>A</b>																	
(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通																	
<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td>②職員全体でのコンプライアンス研修会を年3回実施する。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td>②外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</td> </tr> </table>	評価指標	②職員全体でのコンプライアンス研修会を年3回実施する。	活動計画	②外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td>②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/3～7/20) ※非常勤講師も受講 平成29年度コンプライアンス職員研修(8/3) 冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/4～12/22) ※非常勤講師も受講</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td>②県教育委員会からコンプライアンス推進室長を講師に招いて、8/3に非常勤講師を除く全教職員を対象にコンプライアンスに関する職員研修を実施した。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/3～7/20) ※非常勤講師も受講 平成29年度コンプライアンス職員研修(8/3) 冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/4～12/22) ※非常勤講師も受講	活動計画の実施状況	②県教育委員会からコンプライアンス推進室長を講師に招いて、8/3に非常勤講師を除く全教職員を対象にコンプライアンスに関する職員研修を実施した。	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td>(評定) <b>A</b></td> </tr> <tr> <th>(所見)</th> <td>①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通</td> </tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通	<p>来年度は、職務の満足度を尋ねるアンケートを実施し、一層の運営体制の充実を図ってほしい。</p>			
評価指標	②職員全体でのコンプライアンス研修会を年3回実施する。																	
活動計画	②外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。																	
評価指標の達成度	②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/3～7/20) ※非常勤講師も受講 平成29年度コンプライアンス職員研修(8/3) 冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/4～12/22) ※非常勤講師も受講																	
活動計画の実施状況	②県教育委員会からコンプライアンス推進室長を講師に招いて、8/3に非常勤講師を除く全教職員を対象にコンプライアンスに関する職員研修を実施した。																	
総合評価	(評定) <b>A</b>																	
(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通																	
<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td>③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td>③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実</td> </tr> </table>	評価指標	③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。	活動計画	③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td>③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td>③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。	活動計画の実施状況	③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td>(評定) <b>A</b></td> </tr> <tr> <th>(所見)</th> <td>①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通</td> </tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通	<p>来年度は、職務の満足度を尋ねるアンケートを実施し、一層の運営体制の充実を図ってほしい。</p>			
評価指標	③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。																	
活動計画	③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実																	
評価指標の達成度	③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。																	
活動計画の実施状況	③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3																	
総合評価	(評定) <b>A</b>																	
(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通																	
<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td>③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td>③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実</td> </tr> </table>	評価指標	③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。	活動計画	③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td>③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td>③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。	活動計画の実施状況	③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td>(評定) <b>A</b></td> </tr> <tr> <th>(所見)</th> <td>①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通</td> </tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通	<p>来年度は、職務の満足度を尋ねるアンケートを実施し、一層の運営体制の充実を図ってほしい。</p>			
評価指標	③「目標管理シート」の研修の項目の達成率 90%以上を目指す。																	
活動計画	③計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実																	
評価指標の達成度	③各自が「目標管理シート」に記載した研修内容については、全教職員が取り組むことができた。																	
活動計画の実施状況	③計画訪問時に地歴・生物で研究授業を実施し、他に3																	
総合評価	(評定) <b>A</b>																	
(所見)	①学習指導要領の改訂を見据えて学校運営組織を改変し、相乗効果のある文武両道を掲げて、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて取り組んできた。  ②昨年度までの取組に加え、10月以降新たに「他都市における不祥事案回覧シート」を全職員で回覧し、注意喚起に努めた。  ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通																	

		<p>施するとともに、先進校の視察や予備校等の授業力研修に積極的に参加する。</p> <p>③全教員(非常勤講師を除く)が、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。」</p>	<p>年次や5年次研修における研究授業も実施し、授業力向上に努めた。先進校へは、夢実現応援事業で美術の教員が大阪工芸高校への視察を行い、長期休業期間に7名が大手予備校での研修に参加し、進路指導に役立った。</p> <p>③「目標管理シート」の提出については、「育成・評価システム実施マニュアル」に基づき校長、教頭、教諭、養護教諭にとどめ、当初申告時と最終報告時に校長面接を実施した。また、常勤講師についても当初申告時に合わせて校長面接を実施した。</p>	<p>して、様々な指導力の向上に各自取り組むことができた。</p>													
2 人権教育の推進	<p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実。</p>	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td> <p>①1年生は7回、2年生7回、3年生は6回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p> </td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p> </td> </tr> </table>	評価指標	<p>①1年生は7回、2年生7回、3年生は6回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p>	活動計画	<p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p>	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td> <p>①HR活動 1年生…7回、2年生…7回、3年生…6回</p> <p>①先行授業 1年生…1回、2年生…1回 市・村人研大会で全学年が公開授業を実施した。</p> </td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td> <p>①1年生は、身の回りの差別を中心に指導を行った。2年生は、アイヌから始め、近代・現代の歴史を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。</p> <p>①担任の先生方に、先行授業を見てもらった後、授業感想による振り返りを行った。</p> <p>①人権問題意識調査を実施し、データを分析した。</p> </td> </tr> </table>	評価指標の達成度	<p>①HR活動 1年生…7回、2年生…7回、3年生…6回</p> <p>①先行授業 1年生…1回、2年生…1回 市・村人研大会で全学年が公開授業を実施した。</p>	活動計画の実施状況	<p>①1年生は、身の回りの差別を中心に指導を行った。2年生は、アイヌから始め、近代・現代の歴史を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。</p> <p>①担任の先生方に、先行授業を見てもらった後、授業感想による振り返りを行った。</p> <p>①人権問題意識調査を実施し、データを分析した。</p>	<table border="1"> <tr> <th>総合評価(評定)</th> <td> <p>A</p> </td> </tr> <tr> <th>(所見)</th> <td> <p>①市村人研の開催が決定していたため、4月の早期から準備を始め、計画的に大会を迎えることができた。大会では「貧困」を全体のテーマとし、全学年全クラスで公開授業を行った。複数の人権課題や教科で授業が行われ、授業者・参加者共に実りの多い大会となった。また、本校演劇部の作品上映も好評で、本田先生の熱い講演も聞く者の心を捉えた。この大会で得た成果や課題を来年度以降の人権教育へつなげたい。引き続き、生徒が主体的に授業に参加できる形を目指し、人権問題を「身近」なものとして考えられる生徒を育成したい。</p> <p>②人権委員会の活動も年間を通して活発に行えたが、上にも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動へ向けて、人権委員の授業での役割</p> </td> </tr> </table>	総合評価(評定)	<p>A</p>	(所見)	<p>①市村人研の開催が決定していたため、4月の早期から準備を始め、計画的に大会を迎えることができた。大会では「貧困」を全体のテーマとし、全学年全クラスで公開授業を行った。複数の人権課題や教科で授業が行われ、授業者・参加者共に実りの多い大会となった。また、本校演劇部の作品上映も好評で、本田先生の熱い講演も聞く者の心を捉えた。この大会で得た成果や課題を来年度以降の人権教育へつなげたい。引き続き、生徒が主体的に授業に参加できる形を目指し、人権問題を「身近」なものとして考えられる生徒を育成したい。</p> <p>②人権委員会の活動も年間を通して活発に行えたが、上にも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動へ向けて、人権委員の授業での役割</p>	<p>今年 PTA 県外研修が台風により中止になったが、来年度は代替研修も計画してみてほしい。</p> <p>①市村人研大会もあり、各学年で例年より授業数が1増えた。本校では2授業で1つのテーマを取り扱っているため、6回が最も望ましい。来年度は全学年6回で計画を進めたい。取り扱う個人研課題は、1年生が同和問題(障がい)・いじめ(SVS)・外国人、2年生がアイヌ・同和問題・LGBT、3年生が14項目・DVの予定。</p> <p>②昔の生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業を復活させたいが、できるだけ担任の先生の負担が増加しないように配慮しなければならない。</p> <p>③ワークショップやフィールドワークを取り入れた。職員の人数が多いので、長期休暇を中心に2・3回に分けて行う必要がある。個人研課題は、法律の施行に伴い、合理的配慮や部落差別解消法の研修が必要と考えている。</p>
評価指標	<p>①1年生は7回、2年生7回、3年生は6回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p>																
活動計画	<p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p>																
評価指標の達成度	<p>①HR活動 1年生…7回、2年生…7回、3年生…6回</p> <p>①先行授業 1年生…1回、2年生…1回 市・村人研大会で全学年が公開授業を実施した。</p>																
活動計画の実施状況	<p>①1年生は、身の回りの差別を中心に指導を行った。2年生は、アイヌから始め、近代・現代の歴史を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。</p> <p>①担任の先生方に、先行授業を見てもらった後、授業感想による振り返りを行った。</p> <p>①人権問題意識調査を実施し、データを分析した。</p>																
総合評価(評定)	<p>A</p>																
(所見)	<p>①市村人研の開催が決定していたため、4月の早期から準備を始め、計画的に大会を迎えることができた。大会では「貧困」を全体のテーマとし、全学年全クラスで公開授業を行った。複数の人権課題や教科で授業が行われ、授業者・参加者共に実りの多い大会となった。また、本校演劇部の作品上映も好評で、本田先生の熱い講演も聞く者の心を捉えた。この大会で得た成果や課題を来年度以降の人権教育へつなげたい。引き続き、生徒が主体的に授業に参加できる形を目指し、人権問題を「身近」なものとして考えられる生徒を育成したい。</p> <p>②人権委員会の活動も年間を通して活発に行えたが、上にも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動へ向けて、人権委員の授業での役割</p>																

		<p>③ PTA 研修を実施する。 ③ 校外研修を実施する。 ③ 校内研修を実施する。</p>	<p>③ 5 月研修会「徳島県人権教育推進方針及び指導案について」、10 月講演会「日本社会の変容を見つめて」、1 学期に 1 回、2 学期に 1 回、3 学期は 1,2 年生の人権意見発表会に参加。県外研修は、京都大学を訪問予定であったが、台風接近により中止した。</p>	<p>を大きくしていきたい。 ③ 人権教育職員研修は、年 3 回実施できたが、多様な人権問題に対する教職員の要望に応えられるように、研修のあり方や内容は毎年工夫していく必要がある。</p>	
3 学習指導の 充実	<p>① 授業日数・授業時数の確保に努める。 ② わかりやすく、魅力ある授業に努める。 ③ 学習習慣の定着を図る。 ④ 補習への積極的な参加を促す。 ⑤ 校内実力テストを有効に活用するとともに、希望者受験の模試の積極的な受験を促す。 ⑥ 読書を薦める。 ⑦ 自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る</p>	<p>評価指標</p> <p>① 授業時数を800時間以上確保する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2 学期末までの授業時数 今年度 812</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) <b>A'</b></p>	<p>授業を受けることで興味・関心が深まったと回答している生徒の割合が多い。学習時間は、時間数の増加と共に、学習の質の向上を目指して行ってほしい。インターネットの発達により生徒の新聞離れが進んでいるので、対策を講じてほしい。</p> <p>① 行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。 ② 校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実をはかりたい。授業参観や授業評価については、実施率が 100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。また、アクティブラーニングや ICT 教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、新旧教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。 ③ 家庭学習の習慣の重要性をさらに自覚させ、隙間の時間を活用するよう、面談や学習記録を通して声かけを行うことが重要である。 ④ 補習の意義を HR 担任・教科担任が生徒に理解させ出席を督促するとともに、補習内容についても常に改善・向上させていく必要がある。 ⑤ 希望者受験の模試は視野を広げるためにも有効であること等の意義を伝え、</p>
		<p>② (1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ② 授業満足度70%以上を目指す。 ② 校内授業参観週間を1・2学期に 1回ずつ設定する。</p>	<p>② 「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施 ② 授業満足度は 79.6%で昨年より 2.5%上昇した。 ② 各学期に 1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。</p>	<p>(所見) ① わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ② 授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、生徒の満足度も上がっている。 ③ 学習時間の確保の重要性は感じているものの、部活動との両立で時間の確保が難しい状況もうかがえる。手帳や学習計画をうまく活用できている生徒も少しずつ増えている。 ④ 早朝補習への積極的な取組が習慣化されてきた。 ⑤ 視野を広げるために積極的に模試を受験し復習を行う姿勢が見られた。 ⑥ 読書習慣の定着、開かれた学校図書館へ</p>	
		<p>③ 家庭学習時間調査を定期考査前に実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③ 毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し、定期的集めてコメントを記し、学習がうまくいっていない生徒に対しては、面談の中で助言や指導をして学習習慣の改善を図る。 ③ 自習室の活用を積極的に促し、利用者延べ人数2万人を目指す。</p>	<p>③ 1年生 36%，2年生 30%程度であった。 ③ 手帳や計画表を活用し、適宜面談を通して助言や指導を行った。 ③ 17,182 名 (1/15 現在) の利用者</p>		
		<p>④ (1,2年)全員参加補習の皆勤者数 100人以上を目指す。</p>	<p>④ 1年 121 名、2年 135 名 (2 学期補習まで)</p>		
		<p>⑤ 希望者受験模試の受験者数 (延べ人数) は次の人数を目標とする。 (1,2年) 300人以上 (3年) 1400人以上</p>	<p>⑤ 1年 310 名、2年 345 名、3年 1420 名受験</p>		
		<p>⑥ (1年)夏期休業中の課題として読書感想文を全員提出する。 ⑥ 図書館便りを年7回以上発行する。 ⑥ 学校図書館の年間利用延べ人数5000人、一般貸出冊数1500冊を目指す。</p>	<p>⑥ 読書感想文一全員提出 (277 名) ⑥ 10 回発行 (1/19 現在) ⑥ 開館日数 183 日で、年間利用延べ人数 5,953 名、一般貸出冊数 1,452 冊。(1/19 現在)</p>		
		<p>⑦ 新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合 40%以下を目指す。 ⑦ 各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを 1 回以上行う。</p>	<p>⑦ 新聞を読む習慣のない生徒の割合は 44.4%で、昨年比 5.4%上昇した。 ⑦ 各学年 1 回ずつ実施すると共に、HR や教科において事後指導をした。</p>		
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

	<p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。</p> <p>②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。 ②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p> <p>③週間課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。 ③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間として学習習慣の定着を促進する。 ③集会・面談等において家庭学習時間の確保と重要性を指導し、学習記録に記すことで学習計画を立てる習慣をつける。 ③生徒が集中して学習に取り組める環境を確保する。</p> <p>④担任による生徒への出席の督促と保護者の協力により欠席者を減らす。</p> <p>⑤実力テストごとに出题検討委員会を開く。 ⑤各模試の目的・意義を伝える。 ⑤成績の分析を今後の学習指導に役立てる。</p> <p>⑥夏期休業中の課題として、以下のものを提出させることで正確に読みの確に表現する力を向上させる。 (1年) 読書感想文・現代社会自由研究 ⑥図書館便りで新着図書や推薦図書の案内を行うとともに、各教科からも案内を行う。</p> <p>⑦公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。 ⑦各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p> <p>②1,2年生生徒対象進路講演会、職員対象進路研修会を実施し、進学への心構えや取り組み方、進路指導技術について学んだ。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。 ②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p> <p>③週間課題・日々の課題で学習習慣を図ろうと取り組んでいる。 ③学習時間調査においては、普段より30分多く学習時間を取るように声かけをしている。 ③あらゆる場面を通して、家庭学習時間の確保の重要性を伝えている。具体的な行動計画を立てさせることで、時間を有効に使えるよう声かけを行っている。 ③自習室開放を平日8:30~19:00、休日8:30~16:30にほぼ年間を通じて実施している。12月末で258日開放</p> <p>④電話連絡・三者面談等の機会を通じて補習への出席を督促している。</p> <p>⑤教科・科目ごとに出题の意図、ねらいについて検討し、実施後の振り返りによる分析も行っている。 ⑤各HR担任が個人面談等を通して校内実力テスト・校外模試の目的・意義を伝え、学習意欲の高揚をはかるように指導している。 ⑤校内実力テスト・校外模試の結果は学年・教科で共有し、平素の指導に役立てている。</p> <p>⑥読書感想文－全員提出(277名) 現代社会自由研究－全員提出(277名)</p> <p>⑥図書館では図書館便りで新着・推薦図書を案内するとともに、IRPの探求学習に関するコーナーを新設し、貸出冊数の増加に努めた。</p> <p>⑦1年生全クラス・3年生文系クラスにおいて、新聞を使った発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。 ⑦1学年模擬選挙、2学年アクティブラーニングを交えた講演、3年生は年金セミナーを実施し、社会参画の意義について考えた。</p>	<p>の取り組みは、堅実な成果を上げた。昨年度と比較して利用者数、貸出冊数とも増加した。</p> <p>⑦公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、昨年より新聞を読む習慣のない者が増えているが、より深く読むようになった者が5.2%、読む習慣がついた者が34.6%いるので取り組みの成果は見られる。</p>	<p>現状に満足することなく学力を向上させる意欲を引き出す声かけをしていく必要がある。</p> <p>⑥読書習慣の定着と図書館利用の促進を、引き続き図っていききたい。</p> <p>⑦新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞記事提供の意味合いが高まってきていると言えるので、今後も新聞を使った授業の展開を進め、社会に関心を持つ者の割合を増やしていきたい。</p>
--	---	---	--	---

4	<p>①生徒一人ひとりの</p> <p>評価指標</p> <p>①進路についての進路検討会を下記の回数実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①1年2回、2年2回、3年5回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	<p>早期に目標を決定させる事で、学習意欲の向上につ</p> <p>①進路検討会を担任会の時</p> <p>間に行うなど、効率的に</p>
---	--	---	-------------------------	---

進路指導の充実	進路希望の実現に努める。  ② IRP 活動の充実を図る	<p>(1,2年) 年間 2回 (3年) 年間 5回</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回確保する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①難関大(旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応)の合格者数30人以上を目標とする。</p> <hr/> <p>②IRP活動(市高レインボウプラン)の生徒満足度70%以上を目指す。</p> <p>②京都大学ELCAS参加者校内で5名以上、サイエンスフェスティバルは全国発表の機会を得る。</p> <p>②IRP「徳島を調べよう」「徳島を考えよう」において、地域での調査を各自が3回以上もち、レポートを作成する。</p>	<p>①三者面談 1年2回, 2年2回, 3年3回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回, 2年2回, 3年4回実施した。</p> <p>①5名合格(12月現在)</p> <hr/> <p>②IRPを全面的に変更し, 3年生は教員IRPグループを志望理由書作りに当てた。このため満足度は71.2%だった。昨年度66.4%</p> <p>②京都大学ELCAS参加生は全学年で9名となり, 内3名は京大ジャーナルに英文の査読論文が掲載され学会発表も予定されている。サイエンスフェスティバルは2グループが全国発表を行った。</p> <p>②1年生は「徳島を調べよう」「北海道を調べよう」とともにIRP発表会をもった。また2年生は「徳島を考えよう」においてポスターセッションで中間発表会をもち, 年度末には各自がレポートを作成し, とともに評価も試みた。ただし, 調査回数は3回に満たないグループがあった。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見)</p> <p>①進路指導方法については生徒の目指すべき方向をともに考えながら, 様々な切り口から情報を伝えていく必要がある。そのため, 進路検討会で情報を共有し, 面談を通して生徒理解に努めていく必要がある。</p> <p>②IRPにおいては地元徳島を対象化し, 探究活動を実施するとともに調査・研究方法も学ぶことができた。また, 京大、徳大を中心として高大連携事業を実施し, 学知を活用し受験情報に偏らない興味や関心を喚起した。</p>	<p>ながるので, そのような指導を工夫してほしい。</p>	<p>時間を使うよう工夫していきたい。また, 面談は進路指導の基本であることから, 面談週間だけでなく, あらゆる場面で生徒の状況理解をしていかななくてはいけない。</p> <p>②「徳島調べ」は市高の利点を活かし, 市役所との連携を更に深めるべきである。また各教科との連携も持つことで授業改善や教員の教育活動の幅を広げる可能性に結びつけるべきである。高大連携は引き続き徳大, 京大を中心とした事業を展開し, イベントに終わらない継続教育に発展させるべきである。この意味でも本年度徳大国際センター・総合科学部と始めた「多言語ラボ」により英語だけに終始しない多文化を学ぶ工夫が必要である。また, 次年度に徳大医学部と開始予定の「ジュニアスチューデントラボ」を軌道に乗せ, 基礎研究を体験するなかで自然科学への興味を深化させる機会としていきたい。</p>
5 生徒指導の充実	①集団生活におけるルールを遵守させ, マナーの向上を図	<p style="text-align: center;">評価指標</p> <p>①登校指導, 校内巡視指導(昼休み)を毎日行う。</p> <p>①生活指導の集会を年5回以上実施する。</p>	<p style="text-align: center;">評価指標の達成度</p> <p>①4月, 5月毎日 6月以降適宜行う。</p> <p>①全校集会を4回実施し, 学年集会を1年6回, 2年6回, 3年10回実施した。</p>	<p style="text-align: center;">総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p>	遅刻数は以前に比べると激減している。生徒課だけではなく, 部活動など様々な教員が生活指導に関わ	①あいさつ運動は毎週月曜日以来年度も実施したい。

	<p>る。</p> <p>②遅刻防止の指導の充実を図る。</p> <p>③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。</p>	<p>①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回以上いじめに関するアンケートを行う。</p> <p>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</p> <p>③教育相談担当者と希望者による校内研修会を2回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。</p> <p>①学年集会、全校集会で指導する。</p> <p>①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日に街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う</p> <p>②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。</p> <p>③1、2学期に1回ずつ以上、SCの小倉先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。</p>	<p>①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った</p> <p>②各学年1回実施した。 ②今年度1年1.5人、2年1.5人、3年4.5人であった。(昨年度10.0人)</p> <p>③夏季休業中に2回実施、内容的にも満足のものがあり、普段のカウンセリング姿勢の見直しにもつながった。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。</p> <p>②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。</p> <p>③夏季休業中に集中して、ロールプレイを交えた研修を実施することができた。</p>	<p>(所見)</p> <p>①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。</p> <p>②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。</p> <p>③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</p>	<p>てきた成果である。</p>	<p>②来年度も根気よく指導継続したい。</p> <p>③特別なニーズを有する生徒への支援方法に関する研修等を、担当者以外にも広げられるよう努めていきたい。</p>
<p>6 特別活動の活性化</p>	<p>①部活動の活性化に努める。</p> <p>②ボランティア活動や生徒会活動を活性化</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。</p> <p>②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①部活動加入率 1年 102.0% 2年 101.0% 3年 77.0%</p> <p>①四国大会以上の出場部数 四国大会 16部 全国大会 8部</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を8回実施し、全校生徒に報告した。</p> <p>②1年生は1学期、2年生は3学期に清掃ボランティアを実施。防災委員会で近隣住民に防災マップを作成し</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①②部活動が活発に行われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような指導の取り組みが求められる。</p>	<p>学問・スポーツ・芸術の三本柱がそれぞれに盛んで、よく頑張っている。</p>	<p>①継続して加入率の増加に努めるとともに、競技実績のアップにも努めていきたい。</p> <p>②校内ボランティアは年3回の実施を継続して実施したい。</p> <p>③生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。</p>

		②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。	配布した。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。			
7 安全教育和環境教育の推進	①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。  ②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。  ③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。	評価指標 ①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別、減量化に努める。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。	評価指標の達成度 ①校内美化活動 11 回実施  ①学校周辺地域の清掃活動 3 回実施	総合評価 (評定) <b>A'</b>  (所見) ①「新学校版環境ISO」を継続し、「環境目標」、「行動方針・実施方法」、「役割分担・組織」などを掲示した。また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど、活発な活動を行う事ができたが、使用電気量は昨年と比較すると増えたことが残念である。校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており、今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。	防災に関する取り組みも充実してきているようだが、関心の高い生徒の割合の、目標値が高すぎる気もするので検討が必要である。	①環境委員の活動は活発に行われているのだが、一部の生徒はそのような活動にあまり関心がないように思われる。生徒総会で「ゴミの分別をきちんとすべきだ」という意見がでたり、有志による清掃活動が見られた点は大きな進歩であると思われる。省エネについての関心をより高め、今年度増加した使用電気量を減らせることができるような啓発やアイデアを探りながら活動していきたい。
		活動計画 ①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水と呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトル、紙パックの分別回収、家庭の廃油回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。	活動計画の実施状況 ①毎月の使用電気量及び電気代を調べ、過去2年間と比較したものをグラフにして掲示する事により、より一層節電意識を高めていった。また、校内放送により周知徹底を図った。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をノートにチェックし、そのたびに注意勧告を行う事により、分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル、紙パックの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①ペットボトルのリサイクル方法を見直し、不燃物や粗大ゴミの廃棄のルールについて再考を進めた。 ①環境委員による学校行事前の校内美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃活動を行った。	②年2回の防災訓練を充実したものにし、防災意識を向上させ、自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備・心づもりをすべきかの啓発活動を工夫していく必要がある。防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整えることが喫緊の課題である。	②様々な状況での被災を想定した訓練を実施する必要のあると思われる。地域と共同で行う訓練も計画していく必要がある。防災委員会の活動を広げ、生徒の防災意識の高揚を図るとともに、地域の方々の連携を深めていきたい。	
		②防災について関心の高い生徒の割合を80%以上にする。 ②生徒の防災士資格取得者を育成する。  ③保健委員会の環境衛生管理を年間15回以上実施する。 ③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。 ③保健だよりを年間10回以上発行する。	②防災に関心の高い生徒の割合64.1% 昨年度64.2% 一昨年度53.4% ②防災士は4名が受検し、全員合格した。  ③保健委員会による校内環境衛生管理を年間32回実施することができた。 ③緊急時の対応について、繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。 ③保健だよりを年間11回発行することができた。	②「新学校版環境ISO」を継続し、「環境目標」、「行動方針・実施方法」、「役割分担・組織」などを掲示した。また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど、活発な活動を行う事ができたが、使用電気量は昨年と比較すると増えたことが残念である。校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており、今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。		③保健委員会の活動は、継続して続けていきたい。保健だよりにも保健委員によるコーナーを設けるなど工夫したい。職員研修については研修日を複数設定するなど出席しやすい工夫をしていきたい。
		③保健委員による校内の手洗い設備の管理等を行う。 ③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。 ③保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当な	③毎週火曜日に保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。 ③心肺蘇生法・アレルギー対応研修にシミュレーション研修を取り入れることができた。	③保健委員会の活動や保健だよりにより、安全や健康に関する意識を高めることにつながった。職員研		

		どについて取り上げる。	③6月号で交通事故、7月号で熱中症、9月号で応急手当など、各号で時季に応じた課題を取り上げることができた。	修については、出張や年休による未受講者が多数出た。研修の意義をあらためて考えてもらえるように働きかける必要がある。研修日を複数設定するなどの工夫もしていきたい。	
8	グローバル化に対応した教育の推進	<p>評価指標</p> <p>①徳島大学異文化キャラバン隊参加者、サギノー短期留学参加者、多文化共生講座の満足度 80 %以上を確保する。</p> <p>活動計画</p> <p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島探究講座を実施し、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島大学国際センターと協働し、異文化キャラバン隊への参加や、留学生訪問を通じて世界各地の社会や文化にふれる。</p> <p>①アメリカ・サギノーへの短期留学や、ドイツオルデンブルグ校、また、台湾・国立潮州高等中学との交流を通じて、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの高校生から幅広い知識を吸収する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①異文化キャラバン、サギノー短期留学、多文化共生講座ともに満足度は 80 %を大きく超えた。特に本年度は、台湾交流、多言語ラボなど新設の多文化共生事業を実施し、幅広い参加者を見た。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動を実施した。徳大との連携事業もこれに大きく貢献した。</p> <p>①特に留学生や訪問者などに地元徳島を紹介するプログラムでは大きな成果を得、マスコミでも取り上げられた。新設の多言語ラボは徳島大学留学生から文化や言語を継続的に学ぶ講座となり、参加者が拡大している。</p> <p>①サギノー短期留学、台湾・国立潮州高級中学との交流では、現地の異なる文化を直接に体験する機会となり、特に歴史と現在が結びつく実感を得ている。また、SNSを通じて現在まで続く交流を持っている生徒も多く、交流が拡大、継続している。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①新たな事業を含め、世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらにNPOや諸団体の協力のもと、学内だけでなく、共に地域に向き、社会の中で交流する機会も設けた。</p>	①各イベント毎に独立した参加者を確保するのではなく、継続的に参加者を拡大していく工夫が必要である。そのためには、事業自体を系統化し、位置づけを明確化することを要する。台湾、ドイツとの交流は、継続化させるためにも相互訪問などの機会を設けるべきである。
9	特色ある学校作りの推進	<p>評価指標</p> <p>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上</p> <p>②PTA総会・各種研修会への参加率を増やす。</p> <p>③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。</p> <p>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42以上を目指す。</p> <p>③体験入学参加者数 800人以上を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>①ホームページの更新を年に400回以上行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①アクセス数 149,154件 (4/6～1/15)、1日平均 573.7件</p> <p>②PTA総会の参加率 25.4% 昨年 30.5% 3年対象進路説明会 71% 昨年 66.2%</p> <p>③市高祭の入場者数 1048名 昨年 1091名</p> <p>③イベント数 8 昨年 8</p> <p>アトラクション数 13 昨年 13</p> <p>表現展示数 26 昨年 27</p> <p>食品バザール数 8 昨年 8</p> <p>③体験入学参加者 1080名 (中学生：910 保護者 170) 昨年 1054名 (中学生：899 保護者 155)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①462件 (4/1～1/15)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) <b>A'</b></p> <p>(所見)</p> <p>①保護者宛文書リストをアップロードし、端末から閲覧、出力できるように追加した。また、授業の様子を写真や動画で配信するなど、積極的な情報提供に努めた。</p> <p>②今年もPTA総会と進路講演会を連続して実施し、進路講演会は昨年を上回る参加</p>	<p>PTA 総会の参加率が低いので、上げる取り組みを検討する必要がある。</p> <p>①保護者、中学生、地域の方々のニーズに応じた情報の発信に努めたい。</p> <p>②PTA 総会の意義を高めるため、日程や内容等を工夫していく。</p> <p>③体験入学は毎年好評で、今後もアンケートを実施し、アンケート結果を次回に反映するように努力したい。</p>

		<p>②PTA総会の日程を工夫したり，配布物による案内だけでなく，ホームページを利用し，きめ細かい情報提供交換を行う。</p> <p>②PTA主催の各行事毎に，保護者へのアンケートを実施し，今後の活動の参考にする。</p>	<p>② PTA 主催の学校教育活動の開催に際し，日程の工夫とともに，案内状の配布だけでなくホームページに掲載するなど，情報提供を行った。</p> <p>② PTA 家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より，内容については参加者全員の方が大変よかったですと回答し，来年度の計画の参考にしたい。</p>	<p>率となった。総会の出席率も上がるよう，実施形態や内容の検討を進めていきたい。</p> <p>③体験入学の参加者が毎年 1000 人を越えており，本校への関心を持っている中学生，保護者が多いことが伺える。特に今年は，体験授業が大変分かりやすかったと感じた中学生の割合が増加した。</p>													
		<p>③学校・保護者による作品展・交流を行う等，内容の充実に努める。</p> <p>③事前の計画を綿密に立て，魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。</p>	<p>③生徒会役員を中心に市高祭ポスターを作成し，各中学校や高等学校へ案内した。また，地域住民には市高祭の案内の文書を各家庭に生徒が配布するなど，広報活動に努めた。</p> <p>③体験入学のポスターやチラシを事前に作成し関係中学校への広報活動にまわった。また，中学生が希望する授業を体験できるように時間割を組んだ。アンケート調査からは，約 95 %の中学生が体験授業が分かりやすかったと感じており，（大変分かりやすかった昨年 53.1 %から 65.2 %）高校の授業の様子が分かり，進路決定の参考にしたいという感想があった。今年から部活動体験も実施し，高校の部活動の雰囲気を感じることが出来たと参加した中学生全員から好評価であった。</p>														
10	①情報教育を推進する	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。</td> </tr> <tr> <td>活動計画</td> <td>①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。</td> </tr> </table>	評価指標	①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。	活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	<table border="1"> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。</td> </tr> <tr> <td>活動計画の実施状況</td> <td>①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。	活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。	<table border="1"> <tr> <td>総合評価 (評定)</td> <td>A'</td> </tr> <tr> <td>(所見)</td> <td>① ICT 活用指導力向上のための支援が不十分であった。</td> </tr> </table>	総合評価 (評定)	A'	(所見)	① ICT 活用指導力向上のための支援が不十分であった。	<p>ICT 活用の研修など難しい面もあるが，今後推進して行ってほしい。</p> <p>①アクティブラーニング実践のための ICT 機器の拡充，活用方法に関する研修の実施などに課題がある。教職員の授業改善のための環境整備を進めていきたい。</p>
評価指標	①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。																
活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。																
評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。																
活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。																
総合評価 (評定)	A'																
(所見)	① ICT 活用指導力向上のための支援が不十分であった。																